

2015年7月号

へく

發行所

一般社団法人 大阪北区歯科医師会

大阪市北区南森町1丁目4番28号

ブールバール南森町205号室

TEL (06)6363-0016 FAX (06)6363-0046

二〇一五年
第一回總會

H27.6.29



六月二十九日(月)、午後七時より北区民センターに於いて一般社団法人大阪北区歯科医師会二〇二五年度総会が開催された。石崎好洋議長、戎文彦副議長が着席し、石崎議長より開会宣言が行われた。西本雅英常務理事より点呼の結果発表があり、現会員数二八七名、定款第二八条による総会定足数は九四名。出席者三七名、書面表決者六七名、委任状提出者二四名、合計百一八名で会の成立が報告された。高麗誠紀会長が挨拶に立ち「今総会終了を以て会長の職を辞することになりました。黒川森夫前会長よりバトンを



受け継いで六年と三カ月、執行部役員の協力と会員の先生方のご支援を受け、大過なく役目を果たす事が出来ました。心より感謝申し上げます。この間、昨今の歯科界の情勢を鑑みて、可能な限りの会員の先生方の診療の妨げにならない会務執行を心がけ、また当会が学術団体であることを念頭に活動してまいりました。また昨年には、法改正により一般社団法人に移行することを余儀なくされ、会存続が危機的状況となりました。この機に際し執行部は一丸となつて、当会独自の策も取り入れながらこの難問に立ち向かい応

の成果を得ることが出来たと自負しております。会員の皆様より在任中に賜りましたご支援に感謝するとともに、新執行部にも変わらぬご協力をお願いして退任の挨拶に代えさせて頂きます。」と述べた。

続いて、議事録署名人に
七班阪本光伸先生、班外宮
崎哲先生が指名された。報
告事項の最初に物故会員お
よび物故会員家族に対し弔
慰黙祷が行われ、その後、新
入会員、二班森田洋輔先生、
四班石田憲嗣先生、八班松
田賢太先生、九班前田憲郎
先生、一〇班松井篤子先生、
二班谷木俊夫先生の紹介が
行われた。佐々木裕専務理
事より二〇一四年度会務報
告、公益目的支出計画実施
報告、二〇一五年度事業計画
並びに収支予算について報
告がなされ、続いて上田祐嗣
選挙管理委員長より先の監
事・理事選挙の報告が行わ
れた。議事に移り第一号議案
二〇一四年度一般社団法人大
阪北区歯科医師会会計収
支決算報告ならびに監査報
告に承認を求める件が行わ
れた。森川裕理事より提案
理由の説明(収支決算報告
賃借対照表、正味財産増減
計画書について)がなされ、
大浦寿哉監事による会計監
査報告の後、満場二致で可決



承認された。続いて二号議案「理事・監事専任の件が行われ」「選挙に関する規程七条」に則り理事・監事選挙が行われた。一般社団法人大阪北区歯科医師会選挙に関する規程第九条 理事選挙にあつては候補者が二〇名以下るとき、監事の選挙にあつては、候補者が二名以下のときは、投票を行わず、候補者全員が当選者とする。という規程に則り、候補者名簿の通り全員が当選した事が上田選挙管理委員長より宣言された。次に選挙に関する規程二十二条に従い異議がないか質問があつたが異議はなかった。選挙結果を受け選挙に関する規程二〇条に従い、「第九条による当選者を二〇二五・二六年度の理事及び監事として選任すること」が高麗会長より提案され、石崎議長より当選者全員を一括して理事及び監事として選任することの

決議が述べられ満場一致で決定された。続いて当選証書が代表して大塚俊裕理事予定者、奥野夏樹監事、三輪佳子監事に渡され、両監事より就任の挨拶が述べられた。その後、大塚理事予定者から、総会を暫時休会し、臨時理事会を開催する事が提案され、一時休会となった。

休会が終わり臨時理事会の報告があり、次期会長に大塚俊裕先生が（代表理事）会長に選出された事と役員分担の報告があり、新会長より挨拶が述べられた。

最後に木下秀人副会長の閉会の挨拶、石崎議長の閉会宣言により閉会となった。

続いて、大阪府歯科医師連
盟北区北支部総会、大阪府
歯科医師会国保組合北区北
支部総会が行われ、連盟支
部長に戎文彦先生、国保支
部長に阪本光伸先生の留任
が満場一致で確定した。



第一次大塚執行部発足



会長
大塚 俊裕

今までは、会長という重責は、会長・監事の立候補のもと、総会において、会員の皆様の総意のもとに決定されておりました。

今回は、新法人となつて初めての選挙ですが、新法人の選挙規定では、まず理事と監事が立候補し、理事・監事が選出され、総会で承認を得たのち、理事会において互選で、代表理事すなわち会長を選出するという形をとることになりました。

皆様におかれましては、会員不在で、会長が決定されたように思われるとは存じますが、新法人のルールですので、どうかご容赦ください。

平成九年、大阪北区歯科医師会・第二期黒川執行部のもと、初めての理事就任以来、六期十二年、高麗執行部のもとで三期六年、八年間の長きにわたり、役員を務めさせて頂いております。その間、諸先輩方から多くの

事を学ぶことができましたことに、深く感謝いたしております。

四二歳で初めて理事にさせて頂きましたが、今年で、私も六〇歳、還暦を迎える年になりました。

大阪府歯科医師会役員はじめ他支部での地区長の若返りが図られる中で、時代の流れに逆行するように、高齢の私が、伝統ある大阪北区歯科医師会の会長の重責を担うことになりました。

黒川執行部で叩き込まれた、「和をもつて貴しとなす」をモットーに、会員の先生方のご意見を大切に、先輩諸先生方の教えを拝聴しながら、会内融和に努めてまいりたいと思います。また、支部を支える若い理事の先生方に継承していきたいと考えております。

高麗執行部では、新法人移行で尽力され、大阪府下のどの支部よりも、長期的な展望に立つて、会員の財産を減らすことなく見事に移行を達成されました。

引き継ぐ新執行部は、一丸となつて会員の皆様の立場に立つたきめ細やかな会務運営に努めてまいりたい

と考えております。

また、歯科界を取り巻く環境は、ますます厳しさを増し、超高齢化社会に向けて歯科に求められる様相も変化し、支部一丸となつて、それにいち早く対応していく時代となつてきております。たいへん微力ではございますが、この二年間、新執行部の先生方とともに、頑張つてまいりますので、旧に倍するお力添えをお願い申し上げます。 ※(一)は部長



副会長 地域医療・医療保険
木下 秀人



副会長 医療管理・学術・会計
大浦 寿哉



副会長 福祉・広報
野口 秀夫



常務理事（会計）福祉
土岐 一仁



常務理事（地域医療）
樋口 春彦



常務理事（総務）広報
西本 雅英



常務理事（医療管理）総務
中川 晴彦



専務理事（総括）
佐々木 裕



理事（広報）
芦澤 亮治



理事（医療保険）
天羽 隆



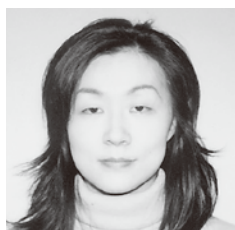
理事（庶務）
岡田 修二



理事（福祉）地域医療
國田 浩之



理事 地域医療
森川 裕



監 事
三輪 佳子



監 事
奥野 夏樹



理事 医療管理 広報 H P
大西 秀威



理事（学術）
奥野 幾久

学術講演会

「高い成功率が期待できる最新の歯根端切除術」
Endodontic microsurgeryの理論と臨床

大阪大学大学院歯学研究科臨床教授
医療法人 豊永会きのもと歯科

木ノ本 喜史 先生

H27.3.5

HP



当日は二〇〇名を超える参加者が平日の夜にもかかわらず北区の東急インに参加し、講演前からまた寒い初春にもかかわらず熱気を感じる会場であった。

講演がスタートし、以前から口腔外科でよく歯根端切除術がなされていることを最初に切りだされ、口腔外科的観点からは歯根肉芽腫及び嚢胞の摘出自体にフォーカスがなされていたが、根尖性歯周炎は感染性の病変であることから、歯根端を切除して終わりではなく、切除部の逆根管充填による確実な封鎖をし、根管内からの細菌の漏洩を防ぐことが肝心であると述べられた。その根拠として、昔からよく引用される Kakehashi の有名な論文

で、無菌ラットにおける根尖性歯周炎は細菌の存在下によつて初めて引き起こされることを引き合いに出し、分かりやすく説明された。また近年非常に歯根端切除術の成功率が上がっており、その要因として歯根端切除術において、いろいろな改良がなされていることがあげられた。

以下のその要因を記す。

(1) 逆根管形成に超音波チップを用いて安全に行い、ペルを設けず最低三ミリの形成を漏洩防止のために行なっている。

(2) 生体親和性、封鎖性、水硬性の高いMTAセメントが利用可能になった。

(3) マイクロスコップ下で行われるようになり、イスマス、フィン、クラックなどが確認できるようになった。

(4) マイクロメスでの鋭利な切開、七〇、八〇縫合糸での繊細な縫合により早く綺麗な治癒が得られるようになった。

二〇一〇年のシステマティックレビューを挙げ、マイクロエンドサージェリーの治療の成功率が九四%であったのに対し、従来法では五九%であることを考えると、いかに顕微鏡を通して見える情報が治療成績を向上させていることが分かる。

また、非外科的な通常の根管治療において予後不良になる原因として、上顎前歯では根尖部のトランスポーターションによるものが多いとされ、口蓋側からアクセスすることにより人為的に湾曲根管が作られ、問題を起こしやすくなるため、切端付近からアクセスし、ストレートに根管形成を始めることの大切さを力説された。下顎前歯部においては二根管性のもので舌側の拡大がなされていないケースが多く、見落とさないうちに気がつけねばならないということである。最新の論文紹介もあり、Ricucciらの今年の論文によると下顎前歯ではやはり舌側が形成されていないケースが多く、根尖孔外に押し出された根

充材も問題になるという病理組織切片を見せ、問題提起をされた。根尖部の湾曲は見落とされることが多く、そのことが治療の失敗につながることも多いため、偏心投影されたレントゲン及びコーンビームCTによる診断の有用性を強調された。

基本的には歯根端切除の後に骨補填材は必要ないと考えられ、木ノ本先生はほぼ使用することがないそうである。また難症例の一つとして根尖近くまでメタルコアが存在する場合があるが、歯根端切除を行つた後メタルが露出した場合でも、切りつばなしで放置することはなく、慎重にメタルを削つていき、同部を逆根管充填することで漏洩を防ぐという基本に変わりはなく、口蓋側からアクセスする尖が破壊されているようなケースにおいてMTAで根管充填がなされるケースもあるが、歯根端切除術が必要になる可能性を考えるとあまり推奨しないとの見解を示された。なぜなら、MTAで根管充填がなされたからといって根尖を切りつばなしにして良いわけではなく、やはり逆根管形成を行い、根尖封鎖を行いたい訳であるが、その際に適切にイスマスやフィン部を除くし、適切な逆根管形成を行なうことがMTAが硬い

ため困難になるからである。

MTAが使用可能になる前、大阪大学ではライトキュアタイプのEufillicで逆根管充填を行われていたが、しつかりと防湿し、漏洩を起こさないようキッチリと充填されれば、新生セメント質が乗ってくる治癒ではないが、線維性の治癒が期待されるので問題はない。またMTAよりも操作性に勝るため、むしろ臨床的には勝る部分もあると述べられた。MTAは使用してみるとよく分かるが、ザラザラの砂のようで粘度がないため、操作性に難があることは臨床家には良く理解できる話であり、操作性の高いセメントが評価されることはなかなか面白いことである。実際現在でも保険診療における歯根端切除術ではこのEufillicを使用されているということである。

また大学時代に培われた研究を臨床に活かすという考えのもと、治療を行つておられる具体例を二つ話された。まず大阪大学の野村先生の論文を紹介され、根尖性歯周炎のある歯牙では歯根吸収が認められるだけではなく、その歯冠側で更にバイオフィルムが見られることがあることを示した。その見解の元、歯牙再植術を用いて根尖性歯周炎の治療を行なう場合は口腔外で歯根端切除を行い、根管形成部をEufillicで緊密に充填し、更に切除した部位よりも少し歯冠側をハンドスケーラーで清掃し、バイオフィルムの除去を試みた後歯牙を抜歯窩に戻すということである。治療成績もよいそうで、研究者の目線が臨床成績をさらに改善させる好例といえるであろう。

日本では保険診療において年間で抜髄が六〇〇万本、感染根管治療が七〇〇万本なされているそうであるが、そのうち歯根端切除術はたったの〇・七二%、歯牙の再植術は〇・六%にしかなされていないというのである。このデータを見ると適切な診断力と治療技術があればもっと歯牙を残していけるのではないかと提言された。講演の最後には、演者が開発したダブルドライバートニックと呼ばれるメタルコアの除去法を解説され、二本のドライバーを用いてより安全かつ簡単にコアを除去する方法とその勘所を示された。

講演後の質疑応答でも活発な議論がなされ、多くの聴衆を引きつける魅力的な内容で盛会のうちに幕をじとじた。改めて皆が歯内療法の大切さと奥深さに気付かされる素晴らしい講演会であった。

(学術部 大月基弘)

税務申告説明会開催

H27.2.5

HP

二月五日（木）午後六時より、大阪東急インにおいて税務申告説明会が開催されました。

大西理事の司会で、大塚副会長の挨拶で始まり、北税務署の番匠副所長の挨拶のあと、山中個人課税第一統括官と片岡資産課税統括官により（１）所得税と消費税のしくみと改正のあら

まし（２）確定申告の留意事項・誤りやすい事例（３）平成二六年度税制改正点（４）金融・証券税制（５）資産税の留意事項について詳しく説明がありました。

ゴルフ会員権等の主として趣味、娯楽、保養または鑑賞の目的で所有する不動産以外の資産を譲渡して生

じた譲渡損失については、平成二六年四月一日以後給与所得などの他の所得と損益通算できないこととなされたとのことです。

確定申告についての情報は、国税庁のホームページで提供しているのので、ご利用くださいとのことでした。

最後に野口副会長からの挨拶で閉会しました。参加者は一八人でした。

（担当理事・大西秀威）

在宅歯科医療連携体制推進事業 「他職種連携在宅歯科医療研修会」

地域における在宅歯科医療を推進するためには医科や介護、行政などいろいろな他職種との連携体制を構築することが急務となってきました。そこでこの度、他職種の方々に向けた研修会を二回シリーズで大淀地区と合同で行いました。受講者には北区で開業または勤務されておられる医師、薬剤師、訪問看護師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ケアマネージャー、ヘルパー、社会福祉士、保健師、行政職員の方々に参加いただきました。



第一回は総論編として二月一九日（木）午後一時三〇分より、北区在宅サービスセンターにおいて二八名に受講いただきました。始めの高麗会長の挨拶の後、

第一回は総論編として

当会地域医療部員の山口善一先生に「高齢者の口腔と健康」、続いて大阪府歯科衛生士会の橋場佳子副会長に「高齢者の口腔と健康」をご講演いただきました。

第二回は各論編として、三月一九日（木）午後一時三〇分より、同じく北区在宅サービスセンターにおいて一五名の他職種の方々のご参加のもとで行いました。内容は淀谷孝洋先生による「在宅医療における訪問歯科診療の重要性」、次に安

「訪問歯科診療の実践」実例を交えて、最後に摂食嚥下リハビリテーションの現状

認知症対応施設歯科保健推進事業

HP

認知症の方々の口腔環境の向上を図るために、認知症対応施設職員を対象とした研修会を二回シリーズで大淀地区と合同で開催しました。

第一回は二月二十三日（月）午後一時三〇分より、北区在宅サービスセンターにおいて六施設一五名の介護職員の方々の参加のもとに行われました。始め

に高麗会長の挨拶、続いて高橋一也大阪歯科大学高齢者歯科学講座准教授による講演「超高齢社会における認知症の基礎知識」、最後に口腔保健協会から派遣された山下政代歯科衛生士の指導による参加者同士での「について」の三講演をいただきました。

この在宅歯科医療連携体制推進事業は昨年六月に施行された医療介護総合確保法において創設された新たな基金事業の内の歯科領域の一つです。この事業は次年度以降も継続され平成二七年度は北区ではさらに踏み込んだ他職種連携研修会が一〇回開催される予定です。

（担当理事・樋口春彦）



口腔ケアの相互実習を行いました。参加者のみなさんの反応は健常者が対象なら何とか習得できても、実際に認知症患者となればコミュニケーションを図ることで精一杯になり、的確な口腔ケアができるだろうかという不安感が漂う第一回研修会でした。

第二回は三月十一日（水）午後一時三〇分より、会場に特別養護老人ホーム藤ミレニアムをお借りし、四施設十二名の介護職員が参加され行われました。この日は実際に藤ミレニアムに入所されている十一名の認知症患者に対して、まず我々歯科医師による口腔内診査、次に



歯科衛生士による口腔ケアのデモ、続いて参加施設職員による口腔ケアの実習を行いました。どの参加者もみなさん熱心に実習、質問され、各々施設での明日からの仕事に役立たせようとしておられました。

前回第一回の時の予想通り、現実は大変であること

を痛感しました。私の行う口腔内診査では全く意思疎通がとれなかった多くの患者が派遣歯科衛生士の口腔ケアでは初対面なのに嬉しそうに感謝している姿を見て、対応能力の高さに感心すると同時に自分も大変勉強になりました。これから間違いなく増加していく認知症患者に我々も対応できるようにしておかなければならないと思います。

（担当理事・樋口春彦）

医療保険講習会

H27.5.21

☑HP

五月二十一日(木)、G C大阪支店において、医療保険講習会が開かれました。

今回は、昨年医療保険に導入されたC A D / C A M冠について、会員の先生方にさらに理解を深めていただく為に開かれた講習会でした。講師を、G C大阪支店材料営業係で、歯科技工士でもある黒須義人様にお願いました。

講習会は、高麗会長の挨拶で始まり、C A D /

C A M冠の開発からその保険導入に至るまでの流れ、材料としての様々な違いや特徴、さらには支台歯形成時のポイントや、マージンの形態に至るまで、全てを端的に解りやすくお話いただきました。質問が活発に出て、質疑応答も盛り上がり、有意義な講習会となりました。

(担当理事 岡田修二)

よい歯のコンクール

H27.5.7

☑HP

五月七日(木)、午後三時〇分より北区保健福祉センターにて「第六回全大阪よい歯のコンクール」北区代表者選考会が行われました。

今回は平成二六年度の三歳児健診を受けた七七八名の中から親子で健康的な口腔内が保たれていると健診時に判断された七組の親子に会場いただきました。

当日は硬組織・歯肉・咬合・清掃状態などの厳正な審査の上、最優良一組、優良三組の親子を選出しました。その後、表彰式へと移り、はじめに高麗会長の挨拶、澤田好



伴保健センター医務主幹による表彰状と記念品の授与、最後に尾辻大淀歯科医師会会長の総評にて幕を閉じました。

管南幼稚園歯みがき指導と講演会

H27.6.5

六月五日(金)、午後一時より、「歯と口の健康週間行事」の一環として、大阪市立管南幼稚園において、歯みがき指導と講演会を行いました。

大阪府衛生士会からは永井るみこさん、林貴代さん、大塚里奈さんにお越し頂き、最初にパネルシアター等による歯みがき指導をして頂きました。園児等は楽しそうに声をあげながらしっかりと学んでいました。その後、四歳児・五歳児には、仕上げ磨きの参考として染め出しを行い、保護者に磨き残しの部位をチャートに記入して頂きました。

今年の私の講演は基本にもどり「むし歯の原因と予防」の演題で行いました。最後に、小さい頃よりよい生活習慣を身につける大切さを強調すると、多くの保護者もうなずいて聞いて頂き、午後二時四〇分に終了致しました。

(中谷 勝)

なお、最優良の親子には北区代表として、五月三〇日に開催される全大阪よい歯のコンクール中央審査会にご参加いただくことになりました。

(担当理事 樋口春彦)

みおつくしの会

H27.6.6

☑HP



六月六日(土)の午後二時から帝国ホテル大阪二四階の「なだ万」にてみおつくしの会が開催されました。今年は新たに宮崎哲先生がみおつくしの会に加入され、計一〇名の先生方にお集まりいただきました。

高麗会長の挨拶に続き、大塚禮三先生の乾杯の音頭でみおつくしの会が始まりました。会の途中、毎年恒例のご参加された先生方に近況報告をしていただきましたが、非常に貴重でためになるお話を多くして頂きました。野口副会長による閉会の挨拶により、みおつくしの会は終了致しました。ご出席の先生方、本当にありがとうございました。来年もご出席して戴くことをお待ち申し上げます。

(担当理事 土岐二仁)

(参加者 敬称略)

大塚禮三、西川亨、加納晴彦、上田祐嗣、黒川森夫、大西馨、坪井康修、橋本收、宮崎哲、長谷川泰彦

(執行部出務者)

高麗会長、大塚副会長、野口副会長、木下副会長、佐々木専務、土岐理事



北歯ゴルフ同好会春季コンペ

H27
4.12

四月十二日(日)に北歯ゴルフ同好会の春季コンペが西宮高原ゴルフクラブで開催されました。

連日の雨模様で心配された天候でしたが、当日は晴天に恵まれ、絶好のゴルフ日和となりました。参加者はメンバー十一名、ビジター五名の合計一六名で、土岐一仁が優勝、吉崎恵忠先生が二位、田中康隆先生が三位という結果となりました。

次回は秋季コンペで九月六日(日)にアートレイクゴルフ倶楽部にて開催予定です。奮ってのご参加をお待ちしております。なおゴルフ同好会への入会および



コンペのみの参加を希望される先生がおられましたら、土岐一仁までご連絡をお願い致します。

(土岐一仁記)

平成27年度・北歯ゴルフ同好会春季コンペ成績									
RANK	NAME	OUT	IN	GROSS	HCP	NET	次回HCP		
優勝	土岐一仁	43	45	88	14	74	10		
準優勝	吉田中	38	41	79	0	79	1		
3位	松井重隆	46	45	91	10	81	9		
4位	大黒重誠	49	43	92	9	83			
5位	高麗文	49	53	102	18	84			
6位	大黒文	48	52	100	15	85			
7位	大黒文	54	52	106	21	85			
8位	大黒文	54	48	102	16	86			
9位	大黒文	47	50	97	8	89			
10位	大黒文	52	55	107	17	90	18		
11位	大黒文	50	63	113	23	90	24		
12位	大黒文	54	52	106	15	91	16		
13位	大黒文	64	64	128	37	91	38		
14位	大黒文	61	64	125	29	96	30		
B B	大黒文	56	50	106	9	97	10		
B M	大黒文	54	59	113	16	97	17		

※北歯コンペは、同ネットの場合の順位はハンディ上位、年齢上位、女性上位の順で決定します。敬称略/順不同

訃報



今中俊三 先生 (10班)

平成二十七年三月二十六日死去

御略歴

昭和二十三年十二月二十一日生

昭和六一年

大阪大学歯学部卒業

(診療所)

今中齒科

北区黒崎町九一八



辻セキ子 先生 (5班)

平成二十七年三月二十五日死去

御略歴

昭和十一年二月二十三日生

昭和三十九年

大阪歯科大学卒業

(診療所)

辻齒科医院

北区天神橋四一八一八

平川ビル二階



森田耕造 先生 (2班)

平成二十七年三月二十八日死去

御略歴

昭和二十五年一月一七日生

昭和五〇年

大阪歯科大学卒業

(診療所)

森田齒科医院

北区堂島一五一一七

堂島グランドビル一階



坂口喜史夫 先生 (班外)

平成二十七年六月二五日死去

御略歴

昭和七年一月十三日生

昭和三十二年

大阪歯科大学卒業

新入会員

(診) 医療法人宏仁会

毎日デンタルクリニック

北区梅田三ー四一五

毎日インテシオビル四階

9班・正木 泰朗

(岡山大・平成元年卒)



2班・森田 洋輔

(大歯大・平成一九年卒)

(診) 森田齒科医院

北区堂島一五一一七

堂島グランドビル一階

2班・谷本 俊夫

(鹿児島大・平成一九年卒)



(診) 裏側矯正齒科医院

梅田リソナル

北区曾根崎新地一

三一六京富ビル九階

8班・松田 賢太

(朝日大・平成二十三年卒)



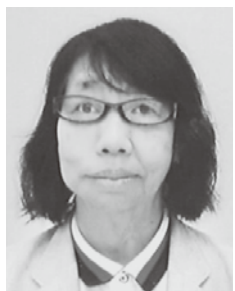
(診) 加納齒科医院

北区芝田一ー一四

阪急ターミナルビル九階

10班・松井 篤子

(大歯大・昭和四十六年卒)



(診) 今中齒科医院

北区黒崎町九一八

編集後記

大塚新執行部が発足しました。引き続き広報部一同がんばりますのでよろしくお願い致します。